



この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。

令和元年12月末日 発行

# やまびこ

## No.255

### 発行

公益社団法人  
埼玉県手をつなぐ育成会  
理事長 高野 淑 恵

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂2-15-3 母子福祉会館内  
Tel. 048-833-0444 Fax. 048-833-0400  
E-mail:saitama@ikuseikai.jp  
ホームページ <http://saitama.ikuseikai.jp>

定価50円  
(購読料は  
会費に含む)

## 第53回

# 手をつなぐ育成会関東甲信越大会 埼玉大会

(併催:第56回埼玉県手をつなぐ育成会県大会)

「この子らを世の光に」

—ノーマライゼーションの原点に立って!—

令和元年11月9日(土)

埼玉会館

埼玉会館にて、第53回手をつなぐ育成会 関東甲信越大会 埼玉大会が開催されました。

当日は、県内、甲信越各地から総勢853名の参加をいただきました!



## 関東甲信越大会 埼玉大会を終えて



理事長

高野 淑 恵

第53回手をつなぐ育成会関東甲信越大会埼玉大会が盛会のうちに滞りなく終了致しました。ご登壇いただきました皆様、埼玉県の会員の皆様、ありがとうございます。

大会を終えて、改めて育成会の絆の強さと温かさを感じ、知的障害者の家族にとつて大切な組織であることをしっかりと感じました。

大会宣言に揚げた糸賀一雄さんの言葉、「私たちは、この人たちの放つ光を光として受け止める人びとの数を増やしてきた」まさに、そのことに一生を捧げてくださった偉大な先人に恥じないように、私たちもできうる限りのことをしていかねばならないと思います。

親亡き後を憂いているだけでは、何の足しにもなりません。幸せに生きている子どもたちの笑顔をどんなときにも忘れずに活動を続けましょう。「動きたくても、もう動けない」という人は祈り、願ひ、思い続けてください。

私もまた、永遠に眼を閉じる最期の瞬間まで「子を思い、光を信じる親」でありたいと思う大会でした。



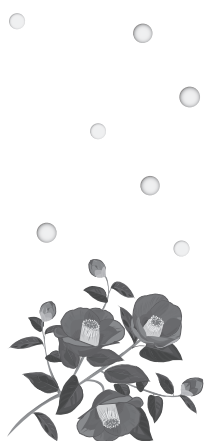
実行委員長

村山 勇 治

1都9県3政令市の育成会正会員が所属する第53回の関ブロ大会は、本人大会を含め、900名近い参加登録をいただき、盛会裏に終了させていただきました。

今大会テーマを、「この子らを世の光に」と提唱した糸賀一雄の思想を共生社会への切り口として取り上げ、障害福祉分野において全国で活躍されている野澤和弘、松上利男、又村あおいの各氏、全育連久保会長、田中統括はじめ、関東ブロック内外の役員の皆様にも登壇いただき、共生社会をキーワードに活発な議論を展開されて、充実した分科会となりました。本人大会は、鉄道博物館バスツアー、人気も高く参加された皆さん、新幹線弁当箱を抱えて満足表情をされていました。

私にとりましても大会会長は育成会最後の大事な仕事、改めて今大会開催にあたり、ご協力下さった皆様に深く感謝申し上げます。



# ご来賓



## 中央情勢報告

### 基調講演

「ネットで伝わりますか？親の思い、子どもの気持ち」

講師 久保 厚子 氏 (全国手をつなぐ育成会連合会 会長)

### シンポジウム

「これからの育成会」～ネット社会の今だから人と人との繋がりを大切にしたい～

講師 佐々木桃子 氏 (社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 理事長)

江村 恵子 氏 (一般社団法人群馬県手をつなぐ育成会 会長)

善川 夏美 氏 (一般社団法人広島県手をつなぐ育成会 副会長)

コーディネーター 金子麻由美 氏 (一般社団法人広島県手をつなぐ育成会 会長)

## 第1分科会

### 基調講演

「知的障害児者の命と人権を守り抜くために私たちがやるべきこと」

講師 野澤 和弘 氏 (毎日新聞 論説委員)

### シンポジウム

「権利擁護を考える」～やまゆり園で散った命から～それでも減らない虐待・差別をどう乗り越えるか～

講師 野澤 和弘 氏 (前掲)

松上 利男 氏 (社会福祉法人北摂杉の子会 理事長)

村山 園 氏 (千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会 委員長)

コーディネーター 田中 正博 氏 (全国手をつなぐ育成会連合会 統括)

## 第2分科会

### シンポジウム

「共生社会で生きることを支えるもの」  
～計画相談、成年後見制度、地域への理解啓発～

講師 又村あおい 氏 (全国手をつなぐ育成会連合会 政策委員)

## 第3分科会





第1分科会に参加して

草加光陽育成会 池田 孝子

第1分科会は、「これからの育成会」というテーマでした。

久保会長の基調講演では、各地の育成会の置かれている現状、今後のあり方の見直しなど大変重要で深刻な問題について、お子さんのことなども織り交ぜながらユーモアたっぷりのお話でよく理解できました。特に『若い親のニーズに気付き、新たなアイデアで対応できる柔軟な体制を築きましよう』との提言には、会員減少が続いている我が会としては、大変参考になりました。

また、シンポジウムでは東京都、群馬県、広島県の育成会で行われている様々な取り組みの紹介がありました。その取り組みは、若い方々ならではの斬新なものがあり、沢山含まれていて、まさに「目からウロコ」状態で、感銘を受けました。

今後の育成会の発展の為には世代交代が必要であるという事を、改めて強く印象付けられた講演とシンポジウムでした。



第2分科会「権利擁護を考える  
「やまゆり園で散った命から」

上尾市手をつなぐ親の会 藤沼 芙美

毎日新聞論説委員を務められた野澤和弘氏の基調講演の後、北摂杉の子会・松上利男氏、千葉県手をつなぐ育成会・村上園氏、全国手をつなぐ育成会連合会統括・田中正博氏を迎えてのシンポジウムでした。

あの忌まわしい「やまゆり園」の事件から三年。長い時間が経過したにも拘わらず障害者に対する差別・見えない所での虐待は一向に減る気配はなく、むしろ社会には依然として差別意識が深く残っていて、これは現在も続くハンセン病に関する報道を見ても同



様の空気を感じてしまいます。だからこそ、私達は子ども達がこの社会にちゃんと存在しているという事を外に向けて地道に声を出し続けることが大事だと思えますし、お世話になつて入所・通所の施設は職員の質の向上を図り、より良い施設である為に組織としての成長を目指して欲しいと願うのです。野澤さんは「障害者、その家族はそれぞれ大変ではあるけれど決して不幸などという事ではない。幸せな姿をどんどん出して！優生思想は昔の訳ではなく現在も社会に根強く在るがその意識を変える若い人達が出てきています。」と仰っています。この世の中まだまだ捨てたものじゃない！野澤さんには是非とも心ある若者を、障害者の未来を託せる若者を沢山育てて頂きたい、とエールを送りたい心境です。

第3分科会に参加して

久喜市栗橋手をつなぐ育成会 中山 紀代



又村さんの講演を聞くのはこれで2回目ですが、とても分かりやすく、なるほど、こういう見方、考え方もあるのだと思う事が多かったです。相手を思いやる事、相手に伝える事、知ってもらう事、興味を持つて貰う事がハンデのある人を理解する一歩なんだと思いました。そして支援者や、関わってくださる周りの方にどのような支援が必要かもしれないと伝えることが大切だと思いました。人は歳を重ねると必ずしも若い頃より視力、聴力、身体が衰えてきます。やはりそれも、相手に伝え、支援してもらえればすごく助かると思えます。

障害者、健常者ではなく人として相手を理解しようとする社会になつていくといいなあと思いました。

二〇一九年十二月末日発行(二五五号)

# 鉄道博物館ツアー



関東甲信越ブロック大会に参加して  
**横山 正明**

今回の本人大会は鉄道博物館見学でしたが、私はリニューアルした鉄道博物館に入場して非常に綺麗なことに感動しました。いろいろなブースを見て回りましたが、鉄道職員の普段のお仕事ぶりや歴史、鉄道で使われる道具の使い方などが学ぶことができました。それと昼食のお弁当は北陸新幹線をモチーフにしたお弁当箱で量は少なかつたのですが、非常に美味しかったです。

今回の参加者が150人以上と非常に多く、果たして鉄道博物館に入場できるかどうか心配でしたが、皆さん思いおもいに楽しんでいました。しかし今回の参加者の中に私のお知り合いが、あまりいなかったのですが、久しぶりの再会ができたのが残念でした。来年はどこで行われるかはわかりませんが、できるだけ参加していきたいと思えます。



千葉市手をつなぐ育成会  
**長谷川真樹子**

今年から千葉市手をつなぐ育成会の会員となりました長谷川と申します。本人は療育手帳A2の小学1年生で地域の特別支援学校に在学中です。電車や車が大好きで日々鉄道番組や鉄道に関連した動画を見たがります。当日は千葉市から電車に揺られて会場に行き、会場からバスで鉄道博物館に行けて鉄道博物館ではたくさんのお車を見られたり絵本を読めてとても楽しそうでした。普段は共働きで妹2人もいて本人だけと余暇を過ごす機会がかなり少ないのですが本人大会に参加できたことで一定時間本人とともに行動し気持ちもありました。この気持ちを今後の生活に生かしていきます。



## あとがき

関東甲信越大会。事務局新人集団で準備にかかり、当日は不備ばかりで右往左往しましたが、会員皆様のご協力があり無事に終えることができました。深くお礼申し上げます。  
《事務局 渡邊》

公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会

未来あんしんサポート

## 未来あんしんサポート

親なきあとのこと... お考えですか?

障がいのあるこの子が お金の管理をできるか心配...

この子が経済的に 困らないようにしてあげたい。

この子への想いを 誰かに引き継ぎたい。

「生命保険」と「信託」が「親御さまの想い」を確実に未来へのこします

障がいのあるお子さまの親御さまは、「親なきあと」の生活がご心配のことかと思えます。「未来あんしんサポート」は、「親あるあいだ」に「親なきあと」をご準備いただくためのご提案です。

「生命保険信託」の仕組みによって、親御さまがお亡くなりになられた場合にFWD富士生命がお支払いする保険金を、みずほ信託銀行がお子さまのための財産として管理しながら、定期的にお子さまにお届けします。

●未来あんしんサポートについて、詳細は「未来あんしんサポートリーフレット」をご覧ください。●株式会社ジェイアイシーは「個人情報」に関する基本方針と題するプライバシーポリシーを策定し、これに基づいて個人情報の取扱いを行っています。その内容は、株式会社ジェイアイシーのホームページにてご確認ください。●当資料は、2018年6月1日現在のお取扱い内容に基づき作成しています。

「未来あんしんサポート」とは、(株)ジェイアイシーがご提案する生命保険と生命保険信託を合わせたサービスの総称です。

お問い合わせはこちらへ

未来あんしんサポートに関するお問い合わせ

ジェイアイシー生命保険信託相談ダイヤル

0120-580-503 通話料無料

受付時間:月～金(祝日・年末年始を除く)9:00～17:00

【生命保険募集代理店・信託契約代理店】

株式会社ジェイアイシー

本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビル2号館2F  
ホームページ www.jicgroup.co.jp

【生命保険引受保険会社】

FWD富士生命保険株式会社

【所属信託会社】

みずほ信託銀行株式会社

登録No.FWD-C1549-1806